

3年目の科目「総合的学習の指導研究」の評価

社会科教育・鴛原 進

1. 授業の概要

総合的学習の指導研究 (Theory and Practice for Integrated Studies) は，鴛原進 (責任者)，壽卓三，吉村直道，梶原郁郎 (以上，学部教員)，中村真紀子 (教育学部附属幼稚園)，山上博彦 (同附属特別支援学校)，村上厚司 (附属高等学校)，山田純子 (教育学部附属小学校)，河口麻衣子 (同附属小学校)，濱田眞基子 (同附属中学校) (以上6人は実地指導講師として) が担当した。履修学生は4人であった。

到達目標は，「総合的な学習の時間」「総合的学習」に関するさまざまな現代的課題について論じ，適切な対応を考えることができる，「総合的な学習の時間」「総合的学習」に関する自己の学習課題を明確にし，理論と実践を結びつけた主体的な学習ができるである。

関連するディプロマ・ポリシーは，教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ，適切な対応を考えることができる。(思考・判断)

2月24日(火)，2月26日(木)，2月27日(金)の15時限の集中講義で実施した。15回分を10人でテーマにより分担した。

実施3年目の講義である。授業担当者間，学生間，担当者と学生間のコミュニケーションを大切にしたい。

2. アンケート結果

授業に関するアンケート (満足度とその理由) を実施した。回答数は4人である。

① 大変満足できるものだった：3人

○ゲストティーチャーが多く，実際の現場で行われた事例を多く紹介してくれたので，とても参考になった。さまざまな学校種の先生方の話を聞いたので，相違と共通点を学ぶことができた。

少人数だったこともあり，話し合いなどで

他の人の意見を聞く機会が多かったのがよかった。

○大学の教員による総合的な学習の時間に関する理論的な内容から，現場の先生による実践的内容まで知ることができたため。

○各学校種の先生方のお話から，「総合的な学習の時間」の具体的な活動例を知ることができ，活動内容を考える際の視点を知ることができたから。

② どちらかといえば，満足できるものであった：1人

○さまざまな教科の視点から多角的に総合学習について考えることができたから。

③ どちらともいえない+④ どちらかといえば満足ではない+⑤ 全く満足できない：0人

3. 総括

学生の講義への参加意欲も満足度も高かった。授業担当者間，学生間，担当者と学生間のコミュニケーションを通して，集中講義ではあるが，授業時間外の学習時間も必要とするようにした。それを学生は果たしてくれたように感じる。

昨年度から各人の手弁当で実施することとなった。来年度も授業の目的を達成するよう努めたい。